ＩＣＴ学習教材コンテンツ活用実践事例

学校名	県立むつ養護	学校

授業について	教科領域名 （✓又は■で記入する。）	■国語　□社会　□算数・数学　□理科　□外国語・外国語活動　□生活　□音楽 □図画工作・美術　□体育・保健体育　□技術・家庭 / 職業・家庭 / 職業 / 家庭 □特別の教科　道徳　□総合的な学習（探究）の時間　□日常生活の指導 □生活単元学習　□作業学習　□遊びの指導　□特別活動　■自立活動 □その他（外部との連携）
	単元(題材)名	わかりやすく　つたえよう
	単元(題材)の目標	・絵カードや写真を選び、意思や経験を伝える。 ・話し言葉の代替手段として、タブレット端末の音声機能を活用する。
学習集団と実態	学部・学年・人数	小学　部　6　年　1　人
	本単元(題材)における学習の主な実態	言葉の意味が伝わる発語としては「ブーブ（車)」「あーたん（母)」「おわった」など30語程度。身振りや動作を交えて相手に挨拶や依頼・報告をしようとするが、伝えたい意図や要望がうまく相手に伝わらない場面も多い。文字や数字の読み取りは難しいものの、身近な生活場面に関する絵カードや写真は、見て選ぶことができる。 タブレット端末の画面からイラストや写真等のボタンを見て意図的にタッチしたり、順にフリックしたりする基本的な操作ができる。話し言葉の代替手段として、機器のプレゼンアプリや音声機能を活用して司会や学習の発表をした経験がある。
ＩＣＴ活用について	支援機器・教材	iPad、ワイヤレススピーカー 電子黒板（プロジェクター機能）
	使用したアプリケーションの名称	ドロップタップ カメラ機能（カード作成）
	主な活用の用途 （✓又は■で記入する。）	(複数選択可能) ■コミュニケーション支援　（■意思伝達支援　□遠隔コミュニケーション支援） □活動支援　（□情報入手支援　□機器操作支援　□時間支援） □学習支援　（□教科学習支援　□認知発達支援　□社会生活支援） □実態把握支援
	ＩＣＴ活用のねらい	・発語できる言葉が限られている本児の実態から、タブレット端末のシンボルカードや音声機能を活用して、相手に適切に意思や経験を伝える。 ・言葉だけでなく、絵やシンボルを相手に示しながらわかりやすく伝えるコミュニケーション手段を広げる。
活用の状況と支援	活用の状況と支援	○活用場面 ・発語が周囲の人にうまく伝わりにくい児童が、コミュニケーションアプリを活用することで身近な経験や気持ちを言葉で伝えたり、依頼・連絡・報告などを伴う活動場面を自発的に行えたりできるようになってほしい。 ○行った支援 ・児童が撮った活動場所や生活・学習に関する写真を、アプリ内でカード化した。 ・イラストや写真のカードを活用場面別にまとめて、ボードを選択できるようにした。 ・アクセシビリティ機能を使うことで、パスワードを入れずにアプリにアクセスし、適時に活用できるようにした。 ・ボードにまとめたカードの意味がわかるようになってから、アプリの「センテンス機能」に切り替え、二語文（～が～した）の形でカードを活用できるようにした。 ○児童の様子・変容 ・対象児は写真を撮ることが大好きなため、タブレット端末のカメラ機能で身近な人や場所、活動の様子などを撮って言葉の素材を集めた。教師がカード化して音声を付加することで、オリジナルのコミュニケーションボードができた。 ・ドロップタップ上のボードを活用して、言葉の学習を開始した。児童は、伝えたい内容のカードをタップして選ぶことで、音声が出ることに喜んだ。 ・児童は、２～３枚のカードを選ぶことで、「～が～している」「～なので～してください」といったまとまりのある文を作ることができた。児童は「○○はお腹が痛い。助けてください。」「～したい。手伝ってください。」といった文を喜んで作って音声で伝えようとした。 ・学習中は不要なボタン等にも繰り返し触れてしまい、学習が滞ることもあった。アクセシビリティの設定（特定のアプリだけ使える状態にする）が必須であった。 ・今後は、生活場面でタブレット端末を活用する機会を増やしてしていきたい。